資料第４－３号

リーダーの声シート　まとめ

シートNo	カテゴリー キーワード	現状・どうしていきたいか	自分たちが取り組むこと	大人や社会に望むこと
1-1	周知・理解	「こどもの権利」のことを大人にもこどもにも認識してほしい		学校の授業に取り入れてほしい（保健、生活、道徳など） 自治体や区に浸透してほしい（行政での話題などで知る機会をもっと増やしてほしい
1-6①	周知・理解	こどもの権利を知っている人自体が少ない。	身近の人から声をかけてみる。	
5-1①	周知・理解	環境整備がされていない。（こどもの権利が知られていない。）		学校で講演会をしてもらったり、授業で考えてみるといった色んな人に知ってもらう機会を増やす。 法律や条例の整備（今やっている事が無駄にならなないように）
5-2①	周知・理解	こどもの権利をより多くの人に知ってもらいたい。	自分たちの意見を発信する（SNS）	ポスターやカードで広める。知ってもらう。 こどもの権利について理解を深め、広げる教育
6-1	周知・理解	こどもの権利という存在と内容が知られていない。 広めていきたい。		学校などの教育現場に携わる人、これから親になる人たちが学ぶ機会の設定
7-1	周知・理解	親しみをもってもらう、身近に思ってもらう、イメージを変える。 「こどもの権利」や「条約」に対し、「とっつきづらい」や「面倒くさい」「難しそう」というイメージを持っている人や「こどもは大人の言うことを聞いていればいい」と思っている人がいる。 イメージ、意識を変え、身近に思ってもらいたい。	自分たちが「権利」や「条例」について堂々として、「こどもの権利」について友人や大人と話す。	学校教育でしっかり取り扱うことによって、大人になったときに拒否感が生まれないようにしていく。 メディア、SNSを使ったり、ゲームアプリを開発したりして、「堅苦しい」と思っている人にも触れてもらう。
7-2	周知・理解	知識で留まっている、主体的に考えられていないこどもの権利について、自分自身の考えをもちたい。もってほしい。		積極的に意見を共有できるように、話し合いの場を設ける。それに積極的に参加。 老若男女が話し合えるようにする。
8-1	周知・理解	こどもの権利が知られていないことによって、将来が狭められていたり、意見を言いづらくなっている。	わたしたちがこどもの権利を広めていくので、 こどもの意見を発信していくので、	沢山の人に知ってほしい。そして、こどものことを大切にしてほしい。 意見を言いやすい環境をつくってほしい。
1-3②	意見表明・対話	「こどもが意見を述べ、大人が聞く」という対話が成立していないこともある		大人の方々（親、先生など）には聞いて見守る姿勢でいてほしい。
1-6②	意見表明・対話	先生や親が最後まで話を聞いてくれない。		大人が歩み寄る姿勢をもってほしい。 話し合いに第三者を入れてほしい。

3-1	意見表明・対話	大人（親、先生）は自分達の意見をこどもたちが納得するまで説明するべき。	自分たちが納得するまで大人に理由の提示を求められる人になりたい。 自分たちも大人の意見を受け入れるので、	大人や社会はこどもたちが安心して意見を言える環境をつくってください。
3-2	意見表明・対話	意見を言いづらい。言えたとしても受け入れられてもらいにくい。結局大人が決めてしまっている。	しっかりと意見を言え、聞いてもらえるような自分でいたい。 根拠を持ち、論理的に展望性をもって大人と話し合う。	フラットな目線に立って意見を聞き、自分たちの意見を尊重、理解してほしい。
4-1	意見表明・対話	意見を押しつけられたり、決めつけられたりするという現状がある。大人と同じ立場で意見に耳を傾けてもらえるような環境づくり		社会の一員として意見を認められる社会
6-3	意見表明・対話	こどもが望むことができていない。（進路、習い事など）		話し合う場をつくってほしい。
5-3	意見表明・対話	こどもだからと意見や意思など軽視されている現状 個人として尊重してほしい。	自分たちの意見や意思などが伝わるように努力する。	大人にはすぐに否定せず最後まで聞いてほしい。 大人がすべてを決めるのではなく、こどもの決定を最大限尊重してほしい。 大人が道を作るのではなく、こどもたちが作った道を通らせてほしい。 安全に通るための手助けをしてほしい。
5-2①	個性	守られている状況で時には厳しいことを伝えてくれるような大人がそばにいる環境で育ちたい。 ありのままの自分で生きたい。		個人として見てもらいたい。意見を尊重して話し合いをしてほしい。
8-2	個性、固定概念	固定化された概念の枠に押し込められ、一般化された特徴のない存在になること、個性の突出しないあり方が求められる。例）学歴、職業	自分たちが取り組むこととしては、こどもたちが自発的、積極的に意見や権利を発信していく。	こどもを「個人」として捉え、その一人一人に合った適切なサポートを行っていくことを望む。
1-3③	個性、 のびしろ、夢	自分ののびしろを信じられる自分でありたい！！		夢や頑張りたいことを尊重し、応援してほしい。
4-2	個性、夢	夢を高らかに宣言できない。 自分らしくあることを否定されない環境づくり		一人の意見として認められること。
2-1	個性、比較	こどもの自尊心、向上心が下げられるような比較がされる。	自分らしさを全面的に出して自分の良い所を主張する。	私たち一人一人の個性と向き合ってほしい。

1-2	個性、比較、固定概念	学校は評価される場であり、家でも兄弟と比較されることがあるため、能力などではなく自分自身として個性を認めてくれる人との関わりが欲しい。		「こうあるべき！」という固定概念から自由になれるような、学校とも家とも異なるコミュニティとつながる機会が欲しい。
2-2	失敗、挑戦 固定概念	大人はこどもを一つの固定概念として捉えていて不当な扱いを受けている。	こどもは大人に認めてもらえるような行動を心がけるが、 私たちは失敗を恐れずに挑戦していきたい。 私たちは、意見をなるべく表明します。 自分たちで挑戦、失敗をたくさんしたい	大人には、こどもも一人の人として尊重してほしいです。 挑戦や失敗を受け入れてほしいです。
8-3	失敗、成長	こどもの失敗が許されにくく、自分で成長していくことができない。		失敗も成長も見守ってほしい。 失敗するから大人の言いうとおりにするではなくて、自分で決めて成長していけるようにしてほしい。
1-5	相談	先生に悩みを相談した際に、他の先生に言わないでほしいと言ったけれど翌日広まってしまっていた。信用がないと相談できないから相談したことをむやみに言わないでほしい。	声をあげる	顔がみえない（プライバシー保護）ように工夫したカウンセラーをつくってほしい。プライバシーを守ってほしい。
5-1②	相談	環境整備がされていない。（相談できる機会、場所が少ない。） 相談できる環境、場所づくりをしていくべき いつでも、どこでも助けを求められる場所があるという安心感を持てる自分		相談できる窓口（電話、役所、スクールカウンセラー、webサイト）を増やす。 学校や機関の整備　スクールカウンセラーや進路指導の機会を増やす。来てもらう回数を増やす。
5-4	保護	こどもの権利が守られていないかも 守られていないとき、止められない こどもが権利を主張できる 大人に助けてもらえる		権利を保護してもらうため、権利の存在をこどもが実際に主張する場、大人に助けてもらう場を用意する。
6-2	恩	大人がこどもに育てた恩を期待していることがある。		こどもが大人に恩返しをすることは義務ではない。 こどもが自主的に恩返しを行う場合は、こどもが大人になってからしてもよい。
1-3①	環境から制限	こどもがやりたいと思ったことを環境、経済的、一方的な考え方などから制限されることがある。		経済的などの環境から制限されない社会になってほしい。
1-4	場所	家にも学校にもいたくない時がある。逃げられる場所、安心できる場所がほしい。勉強したくても環境が合わないと感じることがある。		市役所や区役所、公営図書館などにフリースペースや自習室がほしいです。 大人の目がある、安心できる空間があるといいなと思う。 できれば、学校と連携して出席、欠席を連絡できたり、自習していれば、出席扱いにしてほしいです。